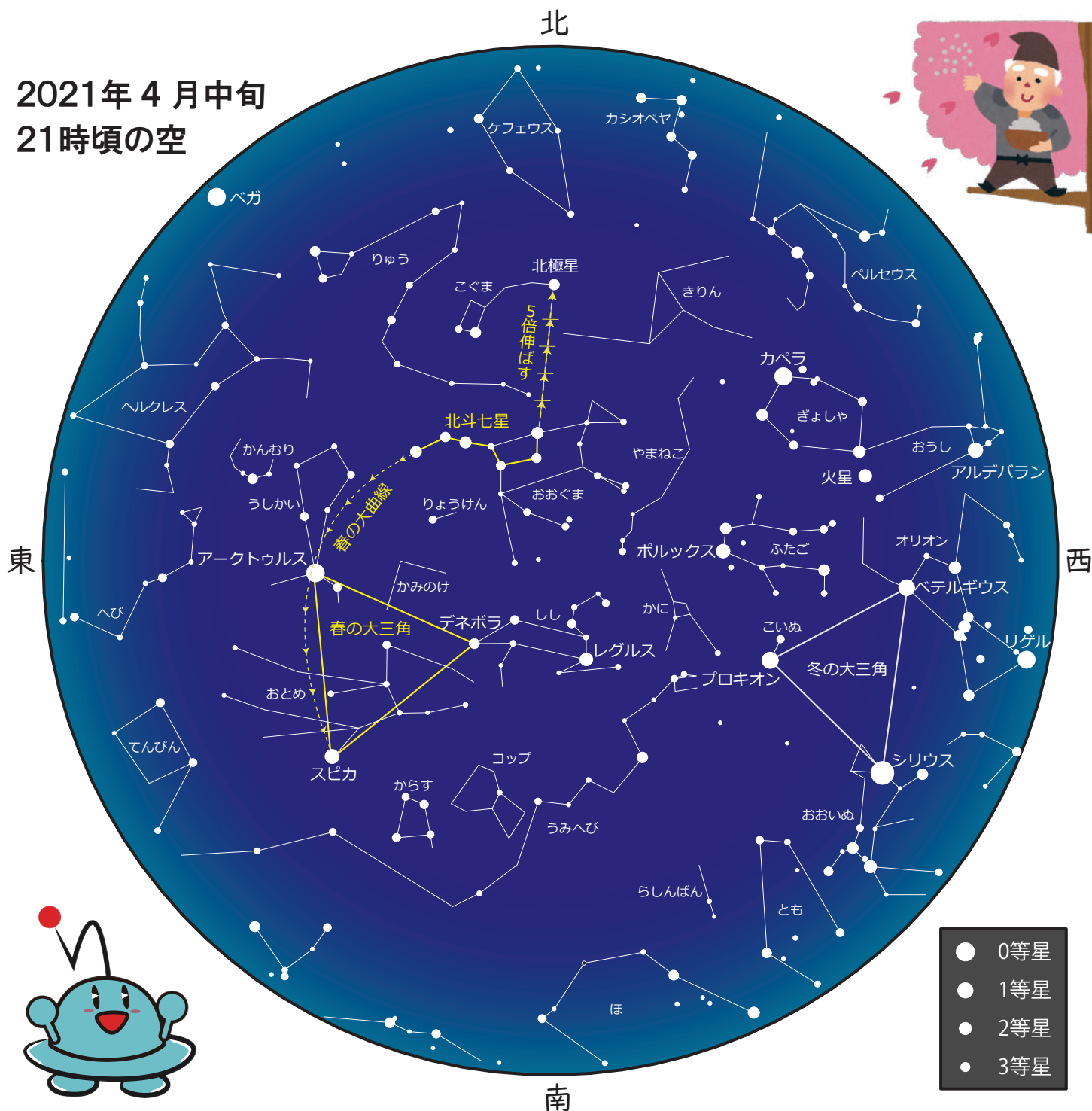


阿南市科学センター 4月の星空案内

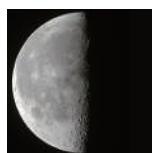
2021年4月中旬
21時頃の空



4月に入り日中はポカポカ陽気の暖かい日が多くなりました。しかし、夜はまだ冷え込む日もあるので防寒対策を忘れないようにしましょう。北の空高くには、よく“ひしゃく”の形に見立てられる**北斗七星**が輝いています。この北斗七星を使って春の明るい星を探してみましょう。ひしゃくの柄のカーブをそのまま伸ばした大きな曲線を「**春の大曲線**」と言い、これを使うと二つの明るい星が見つかります。一つ目はオレンジ色の0等星**アークトゥルス**（うしかい座）、二つ目は青白く輝く1等星**スピカ**（おとめ座）です。春の時期いつも一緒に見えるこの二つの星は“**春の夫婦星**”とも呼ばれて親しまれてきました。さらに、ひしゃくの水を汲む部分にある二つの星を線で結び5倍伸ばすと、**北極星**が見つかります。北極星は一年中北にあるため、方角を知るための星として知られています。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

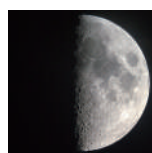
4月の月の満ち欠けと惑星について



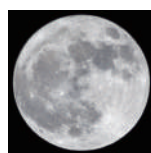
下弦
4日



新月
12日



上弦
20日



満月
27日

4月の天体観望会で月が見える日時は？



4/17(土)・・・全ての回で観測可能



4/24(土)・・・全ての回で観測可能

水星：見かけの位置が太陽に近く観測は難しい。【約-1.8等】

金星：見かけの位置が太陽に近く観測は難しい。【約-3.9等】

火星：宵の西の空で見える。【約1.4等】

木星：夜明け前、南東の低空で見える。【約-2.1等】

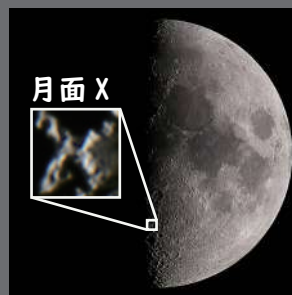
土星：夜明け前、南東の低空で見える【約0.7等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。

ゲツメンエックス

月面Xが見える

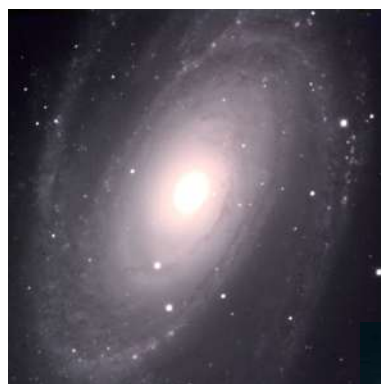
月面Xは半月頃の欠け際にアルファベットの“X”が浮かび上がる現象です。19日の20時半～21時半頃にかけて望遠鏡で観測できます。倍率は50倍以上がオススメです。



★四国最大の天体望遠鏡で撮影した春の銀河

【渦巻銀河 M81 不規則銀河 M82】

おおぐま座に位置するM81とM82は、1774年にドイツの天文学者ヨハン・ボーデによって同時に発見された銀河です。どちらも約1,200万光年の彼方にあり、両者の見かけの距離はおよそ満月1個分しか離れておらず、60倍以下の望遠鏡であれば同一視野で見ることができます。M81とM82は共に銀河の中でも明るく見え、見かけの大きさも大きいため、当館の天体観望会でもオススメの対象です。113cm反射望遠鏡で観望する際は高倍率のため同一視野で見ることができませんが、それぞれ形の違う大きな銀河を楽しむことができます。興味のある方は、観望会でリクエストしてみましょう！



左 図：渦巻銀河 M81
2020年3月24日撮影
機材：113cm反射望遠鏡+
STX-16803E
撮影者：T.Gondou



右 図：不規則銀河 M82
2020年2月18日撮影
機材：113cm反射望遠鏡+
STX-16803E
撮影者：T.Gondou

【黒眼銀河 M64】

M64はかみのけ座にある渦巻銀河で、春を代表する銀河の一つです。地球から約1,700万光年の彼方にあります。1779年にボーデが発見し、彼が第一発見者だと長い間されてきました。しかし、ボーデの発見より12日前にイギリスのエドワード・ピゴットが発見していたことが2002年に確認されています。

M64はM81やM82より小さいですが、目を引くのは中心付近にある黒い影。この暗黒体は、光を吸収するチリの帯が背景の銀河の光を遮ることで浮かび上がっています。この部分が目のように見えることから「黒眼銀河」とも呼ばれています。113cm反射望遠鏡で観望すると暗黒体まで見えて黒眼の様子が分かり、他の銀河とは一味違う魅力を感じることができます。ぜひ、観望会でご覧ください!!



黒眼銀河 M64 (2019年5月4日撮影)
機材：113cm反射望遠鏡+STX-16803E
撮影者：T.Gondou